

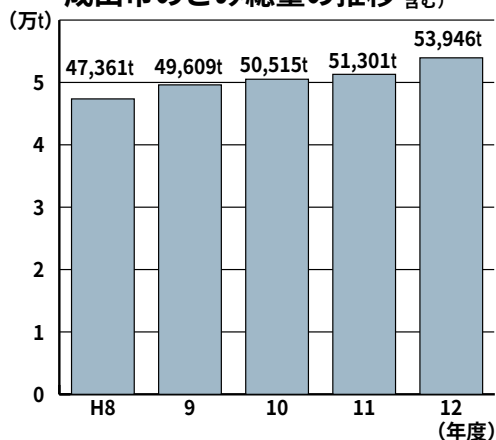
ごみが野菜に 大変身



工夫をすれば再利用できないごみはごくわずか。
生ごみだってこうして野菜になって
わたしたちのところへ戻ってきます。

これまで、再資源化が難しいとされ、多くの自治体でそのまま焼却処分されてきた生ごみ。でも、限りある資源を有効に活用する地域循環型社会をつくるには、生ごみのリサイクルはどうしても取り組まなければならない重要な課題です。今回は、市が行おうとしている、「生ごみ^{たいひ}堆肥化事業」について紹介します。

成田市のごみ総量の推移 (資源回収量含む)



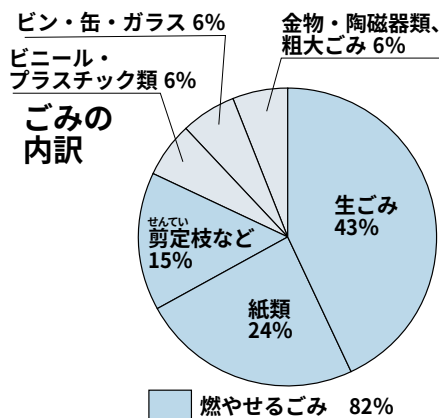
平成12年度の本市のごみ総量に占める生ごみの割合は、何と全体の43%にも上ります。しかも、分別収集により資源化されているビン・缶などとは違い、生ごみは燃えるごみとして全て焼却処分されています。また、生ごみはその70~80%が水分であるため、焼却炉の燃焼効率を下げる原因にもなっているのです。

年々増え続けるごみを、今ある施設で処理していくには、可燃ごみの量を減らすだけでなく、再資源化していかなければなりません。

わたしたち市民にとって、生ごみのリサイクルはとても重要な課題なのです。

ごみ全体の
43%が生ごみ

再利用しにくい生ごみ



ビン・缶・紙などは溶かすなどすれば、ガラス・アルミ・パルプなどの原材料に生まれ変わります。形が変わるだけで、性質はそのままですから、効率も良く、経済性の面からもリサイクルに適したごみといえます。

ところが、生ごみはどう処理しても元の魚や野菜、果物には戻りません。いったん生ごみを堆肥や飼料に加工し、これで野菜や家畜を育て、ようやく食料として再利用できるようになるのです。

このように、生ごみはいくつかの段階を経て再利用するため、手間も時間もかかり、コストも高くつくなど、効率の悪さがその再資源化を阻んできました。

まずは堆肥に変えてから

生ごみを肥やしに野菜を作る。自家菜園などでみなさんがやっていることを、全市民で取り組もうというのが今回の「生ごみ堆肥化事業」です。しかし、一口に生ごみのリサイクルといっても、ごみを野菜に变身させるまでには、たくさんの方の手を経なければなりません。その第一歩が、家庭から出る生ごみをいかに良質の堆肥に「変身」させるかということなのです。

もちろん、堆肥や野菜を作ることが全てではなく、この事業の一番の目的はごみの減量化にあることは言うまでもありません。

リサイクル野菜の味は格別

みなさんの家庭から出た生ごみが、野菜となつて食卓にのるまでには、解決しなければならぬ課題がたくさんありますが、真正正銘の有機野菜の味はきつと格別なものとなるはずです。

市では、この事業を市内全域で実施するための条件や課題を把握し、平成12年度から、「生ごみ堆肥化モデル事業」(次ページ参照)を行い、地域循環型社会の実現を目指しています。

A

わたしたちが普段食べているものが、一番よい堆肥の材料になります。でも、中には食べ物なのに堆肥にならないものもあります。よいものは、肉、魚、野菜、果物、米、パン、卵の殻などです。チューリップやユリの花も大丈夫です。だめなものはエビ・カニの甲羅、貝殻、大きい骨、硬い種、トウモロコシの芯、タケノコの皮などです。油、茶がら、コーヒーがらも堆肥になりません。ビン・缶のリサイクルと同様に、よい堆肥をつくるためには正しい分別が必要です。

Q

うちの生ごみには、魚の骨からアサリの貝殻、お茶がらなどいろんなものが入っていますが、どんなものでも堆肥になるのですか？

※市の生ごみ処理機では、茶がら・コーヒーがらは分解しにくいので、「だめなもの」としていますが、通常は堆肥の材料として問題ありません。油も少量なら大丈夫です。

始まりました 生ごみリサイクル！

東町の モデル事業

一般家庭

リサイクルのスタート地点。
しっかりした分別と水切りが
ポイントです。



生ごみ集積所

週2回、水・土曜日の午前8
時30分までに集積所に持ち寄
ります。



契約農家

堆肥を使い野菜を栽培
します。



生ごみ処理機

リサイクルプラザの敷地に設置。処
理能力は1日200kg。内部は4槽で2～
4カ月かけて発酵熟成。生ごみは1/
30～1/50に減量されて完熟堆肥と
なります。



ごみ収集車

2tトラックで、収集日
の午前8時30分以降に
回収します。



東町区長 鈴木幹男さん

東町は、昭和58年に市内資源分別回収のモ
デル地区に指定されていて、もともとごみ問
題について関心が高い地区なんです。

今回の「生ごみ堆肥化モデル事業」も、地
区のおよそ7割の世帯が協力して、昨年の9月
から週2回、生ごみの分別に取り組んでいます。
わたしたちの出した生ごみからできた堆肥で
育てた野菜を早く食べてみたいですね。



わたしたちの堆
肥で育てた野菜
を食べてみたい
ですね。

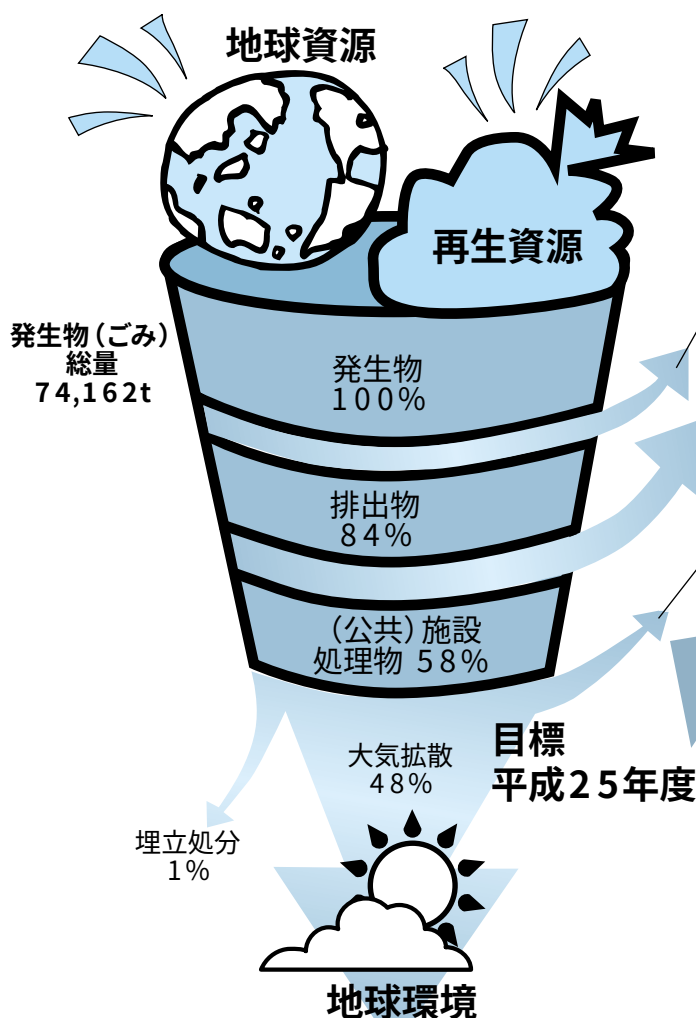


生ごみ堆肥化モデル事業（平成12～15年度）

生ごみ堆肥化事業を市内全域で実施するために必要な条件や課題
を把握するため、一般家庭、事業所、農家からそれぞれモデル事業
参加者を選定して実施。平成12年度より東町をモデル地区として事
業を開始。13年9月から生ごみの回収と堆肥作りを始めました。

目指すは地域循環型社会

3つの大きな柱に基づいてごみの減量・資源化を進めます



大気拡散

木くず・紙くずや、堆肥にできない生ごみなどは、焼却により水(水蒸気)、二酸化炭素、酸素、ちっ素となって大気中に拡散されます。また、堆肥になる生ごみからも大量の水分が蒸発します。

成田市のごみ資源化率

①発生・排出抑制 16%

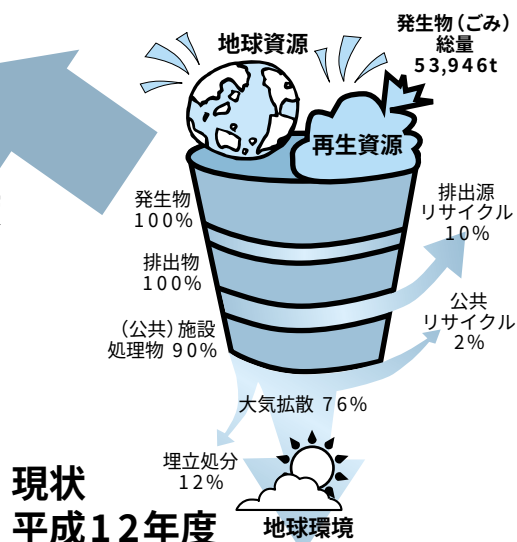
- 事業系ごみの減量・リサイクル
- エコショップ(仮称)の認定など

②排出源リサイクル 26%

- 集団回収 新聞・雑誌などの古紙類やペットボトル・発泡トレーなどを回収します。
- 店頭回収

③公共リサイクル 9%

- 生ごみ堆肥化
 - 焼却灰のエコセメント化など
- 生ごみは、ほとんどが水分のため堆肥として活用できる量は全体から見れば少量です。



ペットボトルも大変身



最近、スーパーの入り口でよく目にするペットボトルの回収器。こうして集められたペットボトルは、意外なものにリサイクルされているのですが、みなさんご存知でしょうか。実は、良質な衣類原料として再利用されていたのです。碎いて、溶かされたペットボトルは化学繊維へと生まれ変わり、最後は写真のような服へとリサイクルされます。みなさんは、この服に一体何本のペットボトルが使われていると思いますか。(答は編集後記で)

※くわしくは環境計画課(☎20-1533)へ。